

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 10月えんだより

10月聖句：「羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。」

＜ヨハネによる福音書第10章16節＞

暦の上でもう秋ですが、まだまだ暑い日が続きます。10月を迎えて、クラスでは今夏の猛暑の為に、なかなか外で遊ぶことがままならなかった時を取り戻すかのように「お散歩**公園に〇〇名ってきます。」とか、園庭や保育室では運動会あそびの「がんばれ！がんばれ！」と大きな声が園舎に響いています。子ども達が声を出して自由に遊ぶ姿はとても輝いています。

先日、お昼ご飯を食べている子ども達のそばで「いっぱい食べて、大きくなろうね」と語りかけると「先生もしっかり食べて、元気出してね。」と言われ、少々疲れていた時だったのでドキッとした時がありました。子ども達の言葉や指摘で保護者の皆さんもドキッとしたことがありますか。子ども達は大人が思う以上に、そのまなざしでしっかりと心を見ていることを感じます。

今月の聖句にでてくる羊は、聖書にたくさんでできます。「眼が見えにくく、地面のくぼみにひるんで、先に進めなくなることもある。臆病で自衛力がなく、迷いやすく群れたがる性質。群れから引き離されると強いストレスを受け、先導者に従う傾向が強い…」と羊について記された文の一部ですが、読んでみますと、自分を含めた人間の集団に似ていることを感じます。聖書の時代の羊飼いは、手には杖と投石袋を持ち、昼夜、強盗や野獣から羊を守ります。羊飼いは命がけの仕事ですが、当時は蔑まれた貧しい職業だったと言われています。羊も羊飼日も私達に縁遠い存在かもしれませんが、聖書を伝えた人達は身近な存在で、それらにたとえて語られています。「良い羊飼い」は羊のために命がけです。聖書の他の箇所によれば、「失われたものを尋ね求め追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。」、「公平をもって養う」(エゼキエル書34章16節)と示されており、イエスはまさにそのようなお方で、神様もそのようなお方であると聖書は伝えています。羊は聴力が優れているので羊飼いの声を聞き分けられ、顔の表情から心理状態も羊は識別できるという研究もあるそうです。

私達が、子ども達を大きく包み、優しく包み、一人一人の声を聴き、愛をもって接してくれるイエスにならない、一人一人の子ども達と出会えたことを感謝し、共に育んでいく姿勢を今改めて示されていると感じています。

年主題 「ともにつむぎだす」～希望の中で～

| 10月 | 乳児 (0,1,2 歳児) | 幼児 (3,4,5 歳児) |
|------|---|--|
| 月主題 | やってみよう | ふれあう |
| 月の願い | <ul style="list-style-type: none"> *季節の移り変わりを感じ、身近な自然とであう *体を動かす遊びを遊ぶ | <ul style="list-style-type: none"> *神さまが与えてくださった力を出し合い、共に取り組む *疑問や気付いたことを調べたり、考えたりする *友だちと遊ぶ中で、いろいろな方法に挑戦し、失敗を重ねながら試す |
| | ちから<幼児讃美歌II 15> | わたしたちの たべるもの<こども改102> |